

NO.	テーマ	概要	1・2年次	3・4年次	ゼミナール担当者
94	「文系のデータサイエンティスト」を目指す	<p>昨今では「ビッグデータ」ないしは「機械学習」や「人工知能」という言葉が目まぐるしく目されている。いずれも基礎的な統計的手法とIT技術に裏打ちされたものである。一見、いずれも文系の学生からは敬遠されがちである一方で、獲得・整理されたデータは「文系の知識」による解釈が求められることもある。また、こういった業界に務めるためには情報産業に関する知識も必要不可欠となる。データ分析のための理論と実践をつなげて学ぶことを目的とする。</p>	<p>科学リテラシー 統計学A・B 数値リテラシー 専門情報リテラシー（心理統計/社会統計） ①「統計解析」Ⅰ プログラミング実習Ⅰ</p>	<p>データ解析論Ⅰ 情報産業論 イノベーションの経済学 情報と職業</p>	後藤 晶
95	「よりよい社会」を実現するために現実を知り、理想を考える	<p>何をもって「よりよい社会」というかは難しいが、少なくともこれからの社会の方向性の1つは人間の行動特性を踏まえた制度設計が必要となるであろう。そのために、行動の現実の記述を試みる「心理学」系の科目を学ぶとともに、行動の理想を示す「経済学」や「社会学」系の科目を学ぶ、そしてどのように現実と理想のギャップを埋めるか「政策的」な考え方を学ぶ。</p>	<p>ミクロ経済学 クリエイティブコミュニケーション（行動経済学） 社会心理学A・B 心理学A・B 脳科学 社会学 社会学A・B</p>	<p>不確実性下の人間行動 情報と経済行動 消費行動の心理学 意思決定論A・B 認知科学Ⅱ 公共政策A・B</p>	後藤 晶
96	社会調査士の資格を取得する	<p>本学部では社会調査士の資格を取得可能である。社会調査士とは調査企画から報告書作成までの社会調査の一連のプロセスを学んだことを示す資格であり、社会調査士の資格を取得しながら、自身の興味のある学問を追求していくのも一つの方法である。「データ解析論/Ⅰ」と「質的調査分析法」はいずれかを履修する必要があるが、アンケート調査などの量的研究に興味がある方は「データ解析論/Ⅰ」の履修を、インタビュー調査などの質的研究に興味がある方は「質的調査分析法」の履修を推奨する。</p>	<p>社会調査法A・B 専門情報リテラシー（心理統計・社会統計） 統計学A・B</p>	<p>データ解析論Ⅰ 質的調査分析法 社会調査実習</p>	後藤 晶